

教育課程等の概要（事前伺い）														
（工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程 産学官共創コース）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	分子材料化学特論	1①②		2		○			1					
	無機化学特論	1③④		2		○			1					
	精密触媒合成化学特論	1③④		2		○			1					
	有機反応化学特論	1①②		2		○			1					
	生体材料化学特論	1③④		2		○				1				
	分子設計化学特論	1①②		2		○			1					
	精密分子化学特論	1③④		2		○			1					
	分子機能化学特論	1①②		2		○			1					
	ケミカルバイオロジー特論	1①②		2		○			1					
	生体関連化学特論	1③④		2		○			1					
	分子創成化学特別講義Ⅰ	1①②		2		○			1					
	分子創成化学特別講義Ⅱ	1③④		2		○			1					
	分子創成化学研究課題企画ゼミナール	1①②		1			○		11	10	1	5		兼4
	分子創成化学先端研究情報ゼミナール	1③④		1			○		11	10	1	5		兼4
	構造物理化学特論	1①②			2		○		1					
	理論有機化学特論	1③④			2		○		1					
	構造有機化学特論	1①②			2		○		1					
	応用電気化学特論	1③④			2		○		1					
	セラミクス化学特論	1③④			2		○		1					
	高分子材料化学特論	1①②			2		○		1					
	分子物性化学特論	1③④			2		○		1					
	精密合成化学特論	1①②			2		○		1					
	有機材料化学特論	1①②			2		○		1					
	超分子材料化学特論	1③④			2		○			1				
	物質機能化学特別講義Ⅰ	1①②			2		○		1					
	物質機能化学特別講義Ⅱ	1③④			2		○		1					
	物質機能化学研究課題企画ゼミナール	1①②		1				○	10	10	2	6		兼1
	物質機能先端研究情報ゼミナール	1③④		1				○	10	10	2	6		兼1
	産業技術論特論	1①②			2		○							兼8
	インターンシップ・オン・キャンパス特論	1通			4			○	21	20	3	11		兼5
合計（30科目）		—	4	54	0		—	21	20	3	11	0	兼13	
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
（応用化学産学官共創コース） 産業技術論特論、インターンシップ・オン・キャンパス特論から4単位以上、分子創成化学コースもしくは物質機能化学コースの開設科目において必修科目2単位を含め6単位以上、専門教育科目から4単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養科目の単位として算入し、必要単位を越える分は専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分		4学期				
								1学期の授業期間		8週				
								1時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要 (事前伺い)														
(工学研究科 応用化学専攻 博士後期課程 Chemical Science英語特別コース)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	先端化学特論 I	1③④		2		○			1					
	先端化学特論 II	1①②		2		○			1					
	研究企画ゼミナール	1通	2				○		21	20	3	11		兼5
合計 (3科目)		—	2	4	0	—			21	20	3	11	0	兼5
学位又は称号		博士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
(Chemical Science英語特別コース) 上記科目から必修科目2単位、選択科目から2単位以上を含め、専門教育科目4単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養科目の単位として算入し、必要単位を越える分は専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分		4学期				
								1学期の授業期間		8週				
								1時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要（事前伺い）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程）【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	有機電子材料科学	1①②		2		○			1	1				
	超分子認識化学	1①②		2		○				1				
	光化学とケミカルバイオロジー	1③④		2		○			1	1				
	生命機能化学	1①②		2		○			1	1				
	化学工学特論	1③④		2		○								兼2
	物性分析工学	1③④		2		○			1	1				
	ナノ物性計測工学	1①②		2		○								兼1
	時空間フォトンクス	1①②		2		○				1				
	光計測工学	1①②		2		○								兼1
	応用表面科学	1③④		2		○			1	1				
	レーザー分光学	1③④		2		○								兼1
	表面原子制御特論	1③④		2		○								兼1
	物質生命工学特別課題演習	1①②		4		○			7	8		5		
	物質生命工学ゼミナール	1③④		8			○		7	8		5		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	バイオテクノロジー特論	1①②・1③④		2		○			7	8	1	6		高度国際性涵養教育科目として履修可
	組織生産プロセス工学	1①②		2		○			1	1				
	生物工学ゼミナール I	1通		2		○			7	8	1	6		
	生物工学ゼミナール II	2通		2		○			7	8	1	6		
	生物工学実験	1①②		2			○		7	8	1	6		
	生命先端工学特論 II	1③④		2		○			1					
	海外フィールドスタディS	1①②		1			○		1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物学A	1③		1		○			8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物学B	1④		1		○			8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2				高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー特論II	1③④		2		○			8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
先端バイオテクノロジーゼミナールI	1③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
先端バイオテクノロジーゼミナールII	2①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
先端バイオテクノロジーゼミナールIII	2③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	

	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	英語特別課題演習	1③④	4			○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	安全工学	1③④	1			○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	工学日本語Ⅰ	1③④		1		○			8	9	1	7	
	工学日本語Ⅱ	1①②		1		○			8	9	1	7	
	E S P バイオテクノロジーA	1③④		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	E S P バイオテクノロジーB	1①②		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	E S P 先端化学A	1③④		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	E S P 先端化学B	1①②		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可
	小計 (54科目)	—	21	75	0	—			8	9	1	7	0 兼6
涵養教育科目 高度国際性	工学英語Ⅰ	1①②		2		○							兼4
	工学英語Ⅱ	1③④		2		○							兼4
	OJE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2			○						兼4
	OJE方式による演習Ⅱ	1通		2			○						兼4
	インターンシップ	1③④・ 2①②		1				○					兼4 集中
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2		○							兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2		○							兼4
	小計 (7科目)	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0 兼5
教育科目 高度教養	計算機化学	1①②		2		○							兼2
	生命先端工学特別講義Ⅰ	1①②		2		○							兼2
	生命先端工学特別講義Ⅱ	1③④		2		○							兼2
	生命先端工学特論Ⅰ	1①②		2		○							兼3
	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2		○			8	9	1	7	
	小計 (5科目)	—	0	6	4	—			8	9	1	7	0 兼9
合計 (66科目)		—	21	94	4	—			8	9	1	7	0 兼20
学位又は称号	修士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
生命先端工学専攻博士前期課程に2年以上在学し、各コース (物質生命工学コース、生物工学コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム) の定める修了要件を満たすこと。							1学年の学期区分			4期			
							1学期の授業期間			8週			
							1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要 (事前伺い)															
(工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 物質生命工学コース) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	生命工学	1③④		2		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物化学工学特論	1①②		2		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	有機電子材料科学	1①②		2		○			1	1					
	超分子認識化学	1①②		2		○				1					
	光化学とケミカルバイオロジー	1③④		2		○			1	1					
	生命機能化学	1①②		2		○			1	1					
	化学工学特論	1③④		2		○									兼2
	物性分析工学	1③④		2		○			1	1					
	ナノ物性計測工学	1①②		2		○									兼1
	時空間フォトニクス	1①②		2		○				1					
	光計測工学	1①②		2		○									兼1
	応用表面科学	1③④		2		○			1	1					
レーザー分光学	1③④		2		○									兼1	
表面原子制御特論	1③④		2		○									兼1	
物質生命工学特別課題演習	1①②		4		○			7	8		5				
物質生命工学ゼミナール	1③④		8			○		7	8		5			高度国際性涵養教育科目として履修可	
小計 (18科目)		—	12	28	0	—		7	8	0	5	0		兼6	
涵養教育科目 高度国際性	工学英語 I	1①②		2		○									兼4
	工学英語 II	1③④		2		○									兼4
	0JE方式による演習 I	1③④・2①②		2			○								兼4
	0JE方式による演習 II	1通		2			○								兼4
	インターンシップ	1③④・2①②		1				○							兼4
	ビジネス日本語 I	1①②		2		○									兼4
	ビジネス日本語 II	1③④		2		○									兼4
小計 (7科目)		—	0	13	0	—		0	0	0	0	0		兼5	
教育度科目 教養	計算機化学	1①②		2		○									兼2
	生命先端工学特別講義 I	1①②		2		○									兼2
	生命先端工学特別講義 II	1③④		2		○									兼2
小計 (3科目)		—	0	2	4	—		0	0	0	0	0		兼6	
合計 (28科目)			—	12	43	4	—	7	8	0	5	0		兼17	
学位又は称号		修士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
(物質生命工学コース) 上記科目から必修科目を含めて16単位以上、選択科目については、生物学・化学・物理学の3分野の授業科目のうち、2分野以上にわたり単位を修得し、専門教育科目から14単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上、高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語 I・II、0JE方式による演習 I・II、インターンシップ及びビジネス日本語 I・IIは、上記科目から必修科目を含めて16単位以上の中には含まれないので注意すること。							1学年の学期区分		4期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要（事前伺い）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 生物工学コース）【既設】														
授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生命工学	1③④		2		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
細胞動態学A	1①		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
細胞動態学B	1②		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
生物資源工学A	1①		1		○			1	1			1		高度国際性涵養教育科目として履修可
生物資源工学B	1②		1		○			1	1			1		高度国際性涵養教育科目として履修可
ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
微生物学特論A	1①		1		○			1			1			高度国際性涵養教育科目として履修可
微生物学特論B	1②		1		○			1			1			高度国際性涵養教育科目として履修可
分子微生物学	1①②		2		○				1					高度国際性涵養教育科目として履修可
ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1				2	高度国際性涵養教育科目として履修可
ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1				2	高度国際性涵養教育科目として履修可
細胞工学特論A	1①		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
細胞工学特論B	1②		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1				1	高度国際性涵養教育科目として履修可
バイオテクノロジー特論	1①②・1③④		2		○			7	8		1		6	高度国際性涵養教育科目として履修可
組織生産プロセス工学	1①②		2		○			1	1					
生物工学ゼミナール I	1通		2		○			7	8		1		6	
生物工学ゼミナール II	2通		2		○			7	8		1		6	
生物工学実験	1①②		2			○		7	8		1		6	
生命先端工学特論 II	1③④		2		○			1						
海外フィールドスタディS	1①②		1			○		1						高度国際性涵養教育科目として履修可
小計（21科目）	—		4	27	0	—		7	8	1	6	0		
工学英語 I	1①②		2		○									兼4
工学英語 II	1③④		2		○									兼4
OJE方式による演習 I	1③④・2①②		2			○								兼4
OJE方式による演習 II	1通		2			○								兼4
インターンシップ	1③④・2①②		1			○								兼4 集中
ビジネス日本語 I	1①②		2		○									兼4
ビジネス日本語 II	1③④		2		○									兼4
小計（7科目）	—		0	13	0	—		0	0	0	0	0	0	兼5
生命先端工学特論 I	1①②		2		○									兼3
小計（1科目）	—		0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3
合計（29科目）	—		4	42	0	—		7	8	1	6	0		
学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法					授業期間等									
（生物工学コース） 上記科目から必修科目4単位を含めて14単位以上、専門教育科目から26単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語Ⅰ・Ⅱ、OJE方式による演習Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ及びビジネス日本語Ⅰ・Ⅱは、上記科目から必修科目4単位を含めて14単位以上の中には含まれないので注意すること。					1学年の学期区分					4期				
					1学期の授業期間					8週				
					1時限の授業時間					90分				

教育課程等の概要（事前伺い）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	生命工学	1③④		2		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学A	1①		1		○			1	1			1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1			1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1			1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1			1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1				2	高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1				2	高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1			1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物学A	1③		1		○			8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	応用生物学B	1④		1		○			8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2					高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅠ	1③④		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅡ	2①②		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅢ	2③④		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4				○	8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4				○	8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	英語特別課題演習	1③④		4				○	8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	安全工学	1③④		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	工学日本語Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1		7		
	工学日本語Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1		7		
	E S PバイオテクノロジーA	1③④		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	E S PバイオテクノロジーB	1①②		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	E S P先端化学A	1③④		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	E S P先端化学B	1①②		1			○		8	9	1		7		高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
小計（32科目）		—	5	42	0	—		8	9	1	7	0			
教育高度科目	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2					8	9	1	7			
教育高度科目	小計（1科目）	—	0	2	0	—		8	9	1	7	0			
合計（33科目）		—	5	44	0	—		8	9	1	7	0			
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
（バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム） 上記科目から必修科目5単位、専門教育科目から26単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。							1学年の学期区分		4期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要(事前伺い)														
(工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程)【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	生命科学特論	1①②		2		○								
	物質科学特論	1①②		2		○			2					
	物性科学特論	1③④		2		○			2					
	物質生命工学研究企画ゼミナール	1通	2				○		7	8		5		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命先端工学特別講義Ⅲ	1①②		2		○			7	8		5		
	生命先端工学特別講義Ⅳ	1③④		2		○			7	8		5		
	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6		
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6		
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6		
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		7	8	1	6		
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					
	研究企画ゼミナール	1③④	2				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
合計(30科目)		—	4	37	0	—			8	9	1	7	0	
学位又は称号		博士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
生命先端工学専攻博士後期課程に3年以上在学し、各コース等(物質生命工学コース、生物工学コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム)の定める修了要件を満たすこと。								1学年の学期区分		4期				
								1学期の授業期間		8週				
								1時限の授業時間		90分				